

平成22年千葉市教育委員会会議
第1回臨時会会議録

千葉市教育委員会

平成22年千葉市教育委員会会議第1回臨時会会議録

日時 平成22年3月8日(月)

午後2時00分開会

午後2時40分閉会

場所 教 育 委 員 会 室

出席委員 委 員 長 津田 英彦
委 員 岩沼 静枝
委 員 内山 英夫
委 員 梅谷 忠勇
委 員 和田 麻理
教 育 長 志村 修

出席職員 教 育 次 長 平賀 周 保 健 体 育 課 長 嶋田 信昭
教 育 総 務 部 長 青葉 正人 教 育 セ ン タ ー 所 長 山 下 正 敏
学 校 教 育 部 長 岩切 裕 養 護 教 育 セ ン タ ー 副 所 長 奥 村 兼 弘
生 涯 学 習 部 長 河野 正行 生 涯 学 習 振 興 課 長 宇 留 間 正
総 務 課 長 森島 俊之 社 会 体 育 課 長 井 谷 芳 明
教 育 総 務 部 参 事 (企 画 課 長 事 務 取 扱) 山 崎 正 義 青 少 年 課 長 三 野 宮 純 一
学 校 財 務 課 長 伊藤 太一 総 務 課 総 括 主 幹 初 芝 勤
学 校 施 設 課 長 豊田 滋貴 学 事 課 調 整 主 幹 山 田 輝 夫
学 事 課 主 幹 芝崎 易生 生 涯 学 習 振 興 課 調 整 主 幹 山 根 正 美
教 職 員 課 長 時田 猛 総 務 課 主 幹 杉 江 達 也
指 導 課 長 小寺 道明 総 務 課 主 幹 大 崎 賢 一

書 記 総 務 課 長 補 佐 内山 健 総 務 課 主 任 主 事 藤 井 拓 也
総 務 課 委 員 会 係 長 小池 正彰 総 務 課 主 事 犬 飼 綾
総 務 課 人 事 係 長 中尾 嘉之

- 1 開会
津田委員長より開会を宣言
- 2 会議の成立
全委員の出席により会議成立
- 3 会議録署名人の指名
津田委員長より和田委員を指名
- 4 会期の決定
平成22年3月8日（1日間）ということで全委員異議なく決定
- 5 議事日程の決定
議事日程を全委員異議なく決定
- 6 会議録の承認
平成22年第1回定例会会議録を全委員異議なく承認
- 7 議事の概要
 - (1) 非公開事項の決定
議案第11号を非公開審議とする旨決定
 - (2) 報告事項
報告事項(1) アクアリンク千葉入場者100万人達成について
社会体育課長より報告があった。
 - (3) 議決事項
議案第11号 県費負担教職員の人事について
教職員課長より説明があった後、審議。全委員異議なく、原案どおり可決した。
 - (4) 発言の要旨
報告事項(1) アクアリンク千葉入場者100万人達成について
津田委員長 社会体育課長、報告をお願いします。
社会体育課長 報告事項(1)「アクアリンク千葉入場者100万人達成について」、報告します。平成22年2月21日（日）午前10時55分に、「アクアリンクちば」の入場者総数が、平成17年10月23日のオープン以来、100万人を達成しました。100万人達成者は、柏市在住の小学3年生で、ご家族4人での来場でした。エントランスホールにて、くす玉割り、入場者100万人目の認定証、花束・記念品の贈呈、教育長挨拶等の記念式典を実施するとともに、一般入場者の方々に、100万人達成の記念品として、施設名入りのボールペンを配布しました。また、3月13日（土）

と14日(日)の2日間、いずれも午前9時から午後5時まで、スケート場・温浴施設の無料開放を予定しています。さらに、3月20日(土)から22日(月・祝)の3日間、来場者を対象とした、施設利用回数券や関連企業からの協賛品等のプレゼント抽選会を実施する予定です。今回の入場者100万人達成をひとつの契機として、市民の皆さんにより親しまれる施設となれるよう、今後も利用者サービスの向上に努めていきます。

内山委員 来場者の年齢層はどうなっていますか。

社会体育課長 アイススケート場は小中学生～若年層が中心です。一方、温浴施設は高齢者の方々の利用が多くなっています。

津田委員長 新聞に、「冬季オリンピック効果でアイススケート場が盛況」との記事がありました。

社会体育課長 報道のとおり、入場者は増加しており、特にオリンピックが閉幕した2月28日(日)には、2,100人の入場者がありました。

岩沼委員 柏市在住の方が100万人目の入場者とのことでしたが、入場者がどこから来ているのか調査は行っていますか。

社会体育課長 特に調査は行っていませんが、市内在住の方に限らず、広く利用いただいています。特に専用利用は、県内から東京都東部を含めた地域内で唯一の通年型のアイススケート場ということもあり、全県から団体利用があります。

議案第11号 県費負担教職員の人事について

委員長 教職員課長、説明をお願いします。

教職員課長 議案第11号「県費負担教職員の人事について」、説明します。当該議案は、平成22年3月31日付け及び同年4月1日付け千葉市立小学校、中学校及び特別支援学校の校長及び教頭、いわゆる県費負担教職員の管理職人事発令について、千葉市教育委員会組織規則第8条第5号の規定に基づき議決を求めるものです。本年4月1日付の管理職の人事発令においては、「平成21年度末及び22年度公立学校職員人事異動方針」に基づき、特に、(1)管理と指導に優れ、高い識見を有した管理職の登用に努める。(2)教育効果を高め、調和的な学校運営が行われるよう、適材適所の管理職人事を推進する。(3)女性管理職の登用について、積極的に推進する。以上の事項に配慮しました。なお、管理職登用にあたっては、原則として同一校での昇任は行っていません。先ず、「校長の部」の「退職」ですが、「本町小学校 和山友美」

はじめ43名です。内訳は、小学校32名、中学校11名であり、そのうち「大森小学校 栗原春江」はじめ4名の女性校長が退職となります。なお、「金沢小学校 伊藤茂明」以外の42名は定年退職で、校長としての平均在職年数は5.0年です。次に、「新任」ですが、「平山小学校 松本博治」はじめ42名を昇格させたいと考えます。内訳は、第二養護学校を含む小学校29名、養護学校を含む中学校13名です。新任校長のうち最年少は「柏台小学校 山本幸人」の51歳、最年長は「平山小学校 松本博治」はじめ21名の57歳です。また、新任校長の平均年齢は56.1歳です。女性の登用ですが、「仁戸名小学校 都築桂子」はじめ6名です。なお、女性校長全体では、今年度の24名から1名増え、25名となります。次に「転出」ですが、県との管理職人事交流により、「現・指導課主任指導主事 三須美也子」を船橋市立坪井小学校の新任校長として転出させます。また、同じく県との人事交流により、「現・市原市立国分寺台西小学校教頭 我妻健次」を磯辺第二小学校長として、千葉大学附属中学校副校長として派遣していた「根本進」を打瀬小学校長として採用します。次に「配置換え」ですが、「畑小学校 林義則」はじめ19名、内訳は、小学校13名、中学校6名です。経験年数、教科等の専門性、学校規模等様々な要件を考慮して、適材適所の配置に努めました。次に「再任用」ですが、教育委員会から再度、校長として学校現場に転任する者で、「本町小学校 嶋田信昭」はじめ8名です。この8名の校長相当職としての事務局在職年数は平均1.8年です。次に「行政へ」ですが、校長から教育委員会事務局に入る者で、「現・更科小学校 佐藤宏喜」はじめ9名、平均年齢は54.4歳です。「現・磯辺第二小学校 寺崎幸雄」以外、教頭・教諭時代に、本市教育委員会事務局を経験しています。校長の異動にあたっては、新任校長については比較的規模の小さな学校に、経験者の配置換えについては比較的規模の大きな学校へ配置するよう配慮するとともに、新任・経験者を問わず、教諭時代の勤務経験の有無、研究指定校の有無、生徒指導上の課題等を勘案しながら、これまでの経験や実績を踏まえて適正配置に努めたところです。また、特別支援学級設置校については、校長・教頭として設置校に勤務した経験のある者や、特別支援教育に長けた者を配置するなど配慮しました。次に、「教頭の部」の「退職」ですが、「更科小学校 永野正」はじめ7名です。内訳は、

小学校5名、中学校2名で、「大巖寺小学校 中田明弘」以外の6名は定年退職です。次に、「新任」ですが、「検見川小学校 黒川章子」はじめ45名です。内訳は、小学校32名、中学校13名で、昇格者の平均年齢は51.0歳、最年少は48歳で「千城台旭小学校 升川光博」1名、最年長は53歳5名です。女性の登用ですが、「検見川小学校 黒川章子」はじめ8名です。これにより、平成22年度の女性教頭数は、今年度の18名から1名増え19名となります。また、参考として、女性教務主任数ですが、本年度の29名から22年度は30名と1名増になります。次に「転出」ですが、千葉県との人事交流により、「現・千城小学校教諭 日野玲子」を市原市立辰巳台西小学校の新任教頭として転出させます。「採用」については、同じく県との人事交流により「現・市川市立二俣小学校教頭 阿部貴幸」を幸町第二小学校教頭として、千葉大学附属中学校及び県教育委員会に派遣していた「天野良介」はじめ3名を、新宿中学校、千草台中学校、有吉中学校の教頭として採用します。次に、「配置換え」ですが、「新宿小学校 鴫田芳朗」はじめ29名です。内訳は、小学校25名、中学校4名で、校長の配置換えと同様、経験年数、教科等の専門性、学校規模等、様々な要件を考慮して、適材適所の配置に努めるとともに、新任の教頭については校長経験者と、また、教頭経験者については新任の校長と組み合わせる等、校長・教頭の経験年数に応じてバランスのとれた配置となるよう配慮したところです。「転出」ですが、「現・土気南中学校教頭 太宰信也」を千葉大学附属中学校副校長として転出させます。最後に、「行政へ」ですが、教頭職から教育委員会事務局へ異動する者で、「現・横戸小学校 川邊敏明」はじめ15名、平均年齢は51.6歳です。

委員 ここ数年の退職者数の推移はどうなっていますか。団塊世代が退職時期を迎えていると思いますが、影響はありますか。

教職員課長 校長の定年退職者数ですが、昨年度44名、今年度42名で、来年度は48名が退職予定となっており、4年程度で全校長が入れ替わるという状況です。なお、教員数のピークは団塊世代より数年ずれていますので、現在のところ、団塊世代の大量退職問題の影響はありません。

8 その他

(1) 2月17日に実施した教育施設の視察について、各委員より所見が述べられ

た。(以下の発言中、「特別支援学校」は学校の種別(小学校・中学校・高等学校・特別支援学校・大学等)、「養護学校」は千葉市立特別支援学校の名称(学校名)を指す。)

岩 沼 委 員 養護学校についてですが、施設面において、本来きめ細かな指導のためのスペースであるにも関わらず、そのスペースを普通教室として使うために、宿泊での日常生活指導等が実施できなくなっていること等、生徒数増加に伴い発生している様々な不具合が見受けられました。また、構造的な部分でも、採光のためとして窓を大きくした結果、日が入りすぎ室温が高くなるため使用できない等、現場での使用に支障が出ているとの意見も聞かれました。施設建設は事務局主導で決める部分が大きいと思いますが、現場で永年にわたり使用することを考慮した、シンプルで使い勝手のいい設計・建築を行うべきであると思います。一方、現場の教職員の方々については、生徒を指導する熱意が大変強く感じられました。事務局においては、その頑張りに対して様々な面から更なるバックアップをお願いします。

和 田 委 員 養護学校では、生徒の就職に関する話が最も大変だとの話を伺いました。生徒の就職のため、教職員が年間300社もの企業をまわるとのことであり、現場の教職員の方々の苦労は並々ならぬものがあると感じました。また、「作業学習」として、野菜等の栽培、陶芸、織物等、生徒それぞれの特性に合った作業を行っていることも印象に残りました。視察の翌日には、「ふれあいフェスタ」として、生徒が栽培・作成した品の頒布会が開催されることで行って見たのですが、そこでは、生徒が販売員として来場者に対応しており、将来、就職してからの仕事の現場でも通用する訓練になっていると感じました。養護学校の卒業生は離職率が低く、大変優れていると聞きますが、就職先と生徒の特性とのマッチングまで考えた就職指導や、このような実践的な作業学習の成果であると思います。一方、スクールバスについては、現在3台体制ですが、通学区域が広いことから、乗車時間が長くなってしまいう生徒がいるとのことでした。特別支援学校のスクールバスの乗車時間が長いことは、全国的にも問題になっているようです。台数増は経費もかかることから難しいかもしれませんが、何らかの改善が必要ではないでしょうか。埋蔵文化財調査センターについてですが、「大膳野南貝塚」の発掘現場の視察が特に印象に残っています。博物館の中で「〇〇で発掘されたもの」とし

て見るより、当時の生活の様子が実感として迫ってきました。発掘作業中ということで、難しい部分もあると思いますが、子どもたちが見学できれば、教科書や博物館等で見ると現実にしての体験を持つことができ、教育効果が期待できるのではないのでしょうか。検討いただきたいと思います。

内山委員 養護学校では、教職員が日々の指導を積み重ねている様子を視察しましたが、生徒の成長を実感する達成感がある一方、負担も大きいのではないのでしょうか。教職員への支援の更なる充実をお願いしたいと思います。

梅谷委員 養護学校の生徒数についてですが、特別支援学校の適正規模は120人程度と考えています。しかしながら、養護学校の現在の生徒数は、すでにそれを超えており、今後も増加傾向とのことでした。ハード面、ソフト面ともに、平成19年度の「千葉市の特別支援教育の在り方について」の答申時点では想定していなかったような状態になっています。特別支援学校の児童生徒数増は全国的にも進行していますが、高等部の独立も含め、規模の適正化は喫緊の課題になっていくだろうと改めて確認しました。

岩沼委員 生徒増に対応した教職員の増員については、今後も適正に措置してください。また、一般校から特別支援学校への人事もあるとのことでしたが、一般校から異動してきた教職員へのバックアップもさらに充実させてください。

津田委員長 養護学校については、統一的なカリキュラムのみでの指導は難しく、生徒一人一人に合わせた、教職員の工夫による部分が大きいと感じました。教職員にとってやりがいがある半面、負担も大きいという側面もありますので、各委員からの所見にもありましたが、事務局からのバックアップを充実・継続させてください。埋蔵文化財については、開発等で破損してしまったところも多くあるとのことでしたが、千葉市の貴重な財産でありますので、残されているところは適正な管理をして大事にしていくとともに、積極的にPRを行い、広く知らせることも必要であると思います。

(2) 「千葉市少年自然の家」の教育的効果について、和田委員より報告があった。

和田委員 先日、青少年相談員の研修で「千葉市少年自然の家」に宿泊しましたが、非常に快適で、オープン直後に行った時と変わらない清潔さが保たれており、良い意味でびっくりしました。平時のメンテナンスがしっかりと行われているとともに、利用者の姿勢も大きいと思います。「〇〇をしてはいけない」といった決まりご

とが、他の施設に比べると多いことが、逆に子どもたちへの教育的効果になっているのではないのでしょうか。当日は、家族連れのイベントが実施されておりましたが、学校単位での利用は定着しているようですので、今後、家族での利用がさらに増加するようPRしていただきたいと思えます。

(3) 次回第3回定例会は、平成22年3月23日（火）午後を開催することと決定した。

9 閉会

津田委員長より閉会を宣言